

副産物情勢

11月13日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容	備 考
内 臓	1.国産牛	○ 9月の成牛と畜頭数は、90.2千頭(前年比100.1%)と前年並みとなった。 内訳を見ると、和牛:45.2千頭(前年比103.3%)、交雑牛:21.2千頭(同104.5%)、乳牛去勢:8.6千頭(同81.9%)となった。 ○ 10月の成牛と畜頭数は、速報値(10月31日まで集計)で93.8千頭(前年比94.3%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(10月29日公表)によると、10月の出荷頭数は、交雑種が増加するものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから、前年同月を下回ると予測する。 11月は、交雑種が前年並みの一方、和牛および乳用種の減少が見込まれることから、前年同月を下回ると予測する。(10月 95.8千頭(前年比95.7%)、11月 101.4千頭(同92.2%)) 3か月平均(9月～11月)では、出荷頭数95.4千頭(前年比95.2%)、生産量30.5千ト(同96.7%)と前年同期を下回る予測となっている。 ○ 需 給 動 向 : 赤物:テールにも引き合いが出てきた。他は引き続き全体的に堅調な動き。 白物:小腸の単価は低調なものの、問合せが増えてきている。	1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月 26日 25 5 令和3年10月 18日 35 7 令和4年2月7日 25 5 令和4年4月4日 35 7 令和4年8月8日 45 9 令和6年12月2日 48 9
	2.国産豚	○ 9月の全国豚と畜頭数は、1,314千頭と前年を上回った。(前年比102.9%) 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道103.0%、東北107.4%、関東103.3%、北陸甲信越110.0%、東海102.3%、近畿101.5%、中四国98.9%、九州・沖縄100.0% ○ 10月の全国と畜頭数は、1,478千頭(速報値10月31日まで集計、前年比101.4%)と前年を上回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年と同様で、1日当たりの平均と畜頭数は67,195頭(前年実績:66,288頭/日、前年差907頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;10月23日付け)によると、11月;1,320千頭(前年比94%)、12月;1,475千頭(同101%)、2026年1月;1,346千頭(同96%)、 2月:1,262千頭(同98%)、3月:1,339千頭(同99%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約97%と前年を下回る見込み。 ○ 需 給 動 向 : 赤物:冷蔵品は堅調な動きであり、凍結に回るのはレバーが主である。 白物:需要期に入り、動きが出てきた模様。今後、市中在庫の消化が見込まれる。	※乳牛45円/kg ※豚正貫物 2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月19日 25 3 令和3年10月 15日 35 4 令和4年2月1日 25 4 令和4年3月28日 35 4 令和4年8月1日 45 5 令和6年12月2日 48 5
	3.輸入牛	○ 9月の輸入通関実績は、全体で38.3千トと前年並みとなった。(前年比100.4%、前月比88.7%)。 内訳ではチルド:13.1千トン(前年比84.9%、前月比87.3%)、フローズン:25.3千ト(前年比111.0%、前月比89.4%)となった。 輸入相手国別では、チルドはニュージーランドが増加した。フローズンは豪州、米国、カナダが増加した。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、国内需要が低調な中、現地価格の高止まり等により、ほとんどの輸入先からの減少が見込まれることから、10月、11月ともに前年同月を下回ると予測する。フローズンは、10月は現地価格の高止まり等により、ほとんどの輸入先からの減少が見込まれることから前年同月を下回ると予測する。11月は輸入量が減少傾向にある中、冷蔵品から冷凍品へ需要シフト等により輸入品在庫が比較的低水準にあること等により、前年同月を上回ると予測している。3か月平均では、チルドは下回り、フローズンは同水準と見込んでいる。 令和7年10月 合計:38.8千ト(前年比88.3%)、チルド:13.2千ト(同84.2%)、フローズン:25.6千ト(同 90.7%) 令和7年11月 合計:34.4千ト(前年比99.5%)、チルド:12.7千ト(同93.2%)、フローズン:21.7千ト(同103.7%) ○ 輸入牛内臓実績(令和7年9月):牛腸(冷凍):941ト(前年比76.6%・前月比102.7%) 国別実績;米国690ト、メキシコ131ト、豪州94ト、カナダ22ト、他牛レバー(冷凍):129ト(前年比148.1%・前月比173.5%) 国別実績;豪州63ト、米国58ト	3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和牛) 豚原皮 令和元年7月22日 700 10 令和2年3月16日 500 10 令和2年6月15日 100 10 令和2年7月20日 100 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年5月24日 10 10 令和5年10月16日 10 2
原 皮	1.牛原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 9 月) : 35,873枚(前年比98.7%、前月比89.2%) 国別実績;タイ32,208枚(前年比104.5%)、韓国2,415枚(同43.7%)、フィリピン1,250枚(前年なし) 輸 出 平 均 価 格 (令 和 7 年 9 月) : 2,443円/枚(前年差▲168円、前月差+29円) ○ 輸 入 実 績 (令 和 7 年 9 月) : 牛大判皮18,587枚(前年比75.3%、前月比101.1%)、ウェットブルー12,283枚※(同47.7%、同141%) ※4.4㎡/枚で計算 輸 入 平 均 価 格 (令 和 7 年 9 月) : 牛大判皮7,338円/枚(前年差▲27円、前月差+1,776円)、ウェットブルー8,626円/枚(同▲494円、同+1,959円) ○ 海 外 情 勢 : 流通価格は前月より上向きとなってきたが、昨年より価格は下がっている。この先も低位価格が見込まれる。 ○ 国 内 情 勢 : 荷動きに特段大きな変化はみられない。品質が劣るものは価格が安くても引き合いが弱い。	4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和ヌキ) 豚原皮 令和元年8月15日 1,000 10 令和2年3月16日 800 10 令和2年6月22日 300 10 令和2年7月27日 300 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年6月1日 10 10 令和5年10月23日 10 2
	2.豚原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 9 月) : 986,360枚(前年比109.8%、前月比110.3%) 国別実績;タイ789,520枚(前年比103.7%)、カンボジア184,140枚(同180.4%)、韓国12,700枚(同61.4%) 輸 出 平 均 価 格 (令 和 7 年 9 月) : 292円/枚(前年差▲84円、前月差▲11円) ○ 需 給 動 向 : 価格はさらに下落、各原皮業者の収支は一層厳しいものとなっている。 夏場の価格が底値との見方もあったが、秋以降も復調していない。	
レンダリング	1.油脂等	○ 国産食用加工油脂向け価格(11月渡し):牛脂175円/kg(前年差+30円、前月差±0円)、豚脂175円/kg(同+30円、同±0円) 牛脂・豚脂ともに需要は底堅く、引き続き需給は引き締まっている。 この先需要期に入ると、需給が一段とひっ迫する可能性がある。 ○ マレーシア産パーム油相場(10月):192円/kg(前年差▲14円、前月差▲26円) 9月生産量は184万トン(前月比99.3%)、輸出量は142万トン(同107.7%)、月末在庫は236万トン(同107.2%)となった。 一時的に値を下げたが、世界的なバイオ燃料の需要の拡大傾向は継続し、中長期的にみて油脂需要の引き合いの強さは続く見込み ○ 関 東 飼 料 用 油 脂 (10 月) : 144円/kg(前年差+30円、前月差+10円) ○ 工 業 用 油 脂 (10 月) : 125円/kg(前年差+30円、前月差+10円) ○ UCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格(10月):153円～156円/kg程度(前年差+30円、前月差+10円)	5.食用加工油脂価格 単位:円/kg 価格改定年月日 牛脂 豚脂 令和5年4月1日 165 175 令和5年7月1日 155 165 令和5年10月1日 145 155 令和6年7月1日 145 145 令和7年2月1日 155 155 令和7年7月1日 165 165 令和7年10月1日 175 175